

令和3年12月10日

保護者・PTA会員の皆様

岡崎市立新香山中学校長 小田 哲也
新香山中学校PTA会長 殿内 康介

小中学生のオンラインゲーム・スマホ依存の防止について（依頼）

師走の候、日頃は本校教育とPTA活動への御理解と御協力をいただき、誠にありがとうございます。

新聞などで、小中学生のオンラインゲームやスマホ依存が進んでいることの報道をよく見かけるようになりました。令和3年12月6日付の毎日新聞では、横浜市教育委員会が発表した市内の小中学生対象の「ゲーム障害」やインターネット依存に関する調査内容が載っていました。調査では1割近くが、ゲームまたはネット依存の傾向があり、日常生活に深刻な影響を及ぼす可能性もあるとしています。

本校でも、欠席や体調不良の理由に「夜遅くまで、友達と通信型のネットゲームをしていた」などと話す生徒が多くいます。世界保健機関（WHO）は、2019年に、オンラインゲームなどにのめり込んで日常生活に支障をきたす「ゲーム障害」を依存症と認定しています。また日本医師会や小児科学会では、裏面の通り、深刻な状況になることを広報しています。スマホ依存と学力や生活意欲の低下についての相関性を示す論文や書籍もあり、特に成長期の小中学生への影響を危惧しています。

学校では、こういったネット依存や情報モラルについて、道徳の時間をはじめ、多様な場面で指導していますが、保護者の皆様におかれましても、家庭でのネット利用について、お子様の健全な成長に影響しないよう、下記の通りご留意いただきますようお願いいたします。

記

1 ご家庭でご留意いただきたいこと

- ・日頃からのお子様のオンラインゲームやスマホ等の利用の状況について、適切な管理指導をお願いします。
- ・冬季は、お子様が家庭で過ごす時間が増えることから、ネット依存が進む時期になり、ネット利用が原因となる体調不良の報告が増えます。お子様の生活状況に十分ご留意いただきますようお願いいたします。

2 資料

- (1) 毎日新聞 小中学生1割依存傾向「ゲームのことばかり考える」「ネットに夢中」
<https://mainichi.jp/articles/20211206/k00/00m/040/004000c>
- (2) 東洋新聞 低年齢ほど治療困難「ネット依存」知られざる実態、主な依存対象は「対戦型オンラインゲーム」 <https://toyokeizai.net/articles/-/462372>
- (3) 世界保健機関（WHO）のゲーム障害の定義
 - ・ゲームをする時間や頻度をコントロールできない
 - ・ほかの生活上の関心事や日常の活動よりゲームを選ぶほど、ゲームを優先する
 - ・問題が起きているのにゲームを続ける、またはより多くゲームをする
 - ・個人、家族、社会、教育、職業やほかの重要な機能分野において著しい障害を引き起こしているこの4項目の状態が12カ月以上続く場合にゲーム障害と診断。ただし、4症状が存在し、重症である場合には、それより早期の診断が可能。

(連絡先：岡崎市立新香山中学校 教頭 柴田明美 電話45-2026)